



# 人との出会いが道を拓き 会計士として 成長させてくれる

有限責任 あずさ監査法人 大阪事務所 第3事業部 マネジャー  
鈴木 智博 Tomohiro SUZUKI



2008年あずさ監査法人大阪事務所入所。ソフトウェアメーカー、繊維商社、通信事業会社、レジャー産業等の監査に従事した後、IFRS、決算早期化、M&A 関連アドバイザー業務に携わり、2015年にKPMG バンコク事務所（タイ）に赴任。日系企業支援部隊の一員として、監査、会計、税務、法務、その他アドバイザー等の業務に従事し、2016年にはKPMG ホーチミン事務所（ベトナム）へ。現地日系企業に対する投資、会計、税務、法務等のコンサルティングに従事し、2019年あずさ監査法人大阪事務所に帰任。現在はグローバル製造業の金商法/会社法監査、外資系企業のリファード監査、ベトナムへの進出・ビジネス拡大に関するアドバイス、リクルート活動、IFRS等を担当。

母校の先輩との出会いをきっかけに、公認会計士の道へ。監査法人へ入所後も、出会った上司や先輩に導かれるように海外赴任へ。鈴木智博さんは、人との出会いを大切に、「一期一会」の精神を大切にするプロフェッション。常に明るく前向きに取り組んできたという、公認会計士の仕事の面白さを語っていただいた。

## 高校生でなろうと決めた 公認会計士

一公認会計士を目指そうと思われたきっかけを教えてください。

中高大一貫校に在籍していた高校生の時に、大学の説明会で公認会計士の先輩がいらっちゃって、その方の話から公認会計士という職業があることを知りました。公認会計士は、色々な人と出会う機会に恵まれている、職業としての幅があるなどの話を聞いているうちに、面白そうだなと思ったのがきっかけです。

なかでも特に惹かれたのは職業としての幅の広さです。公認会計士になって、会計事務所に入ったとしても、将来の道の選択が広い。例えば、ある事業会社のCFOになる道もあるだろうし、自分で事務所を開設する、大学の先生やアカ

デミックな分野に進むという道もあるでしょう。他の資格や職業と比較して、選択肢の幅があるというお話を聞いて、公認会計士を目指したいと思いました。その先輩自身も「公認会計士になって楽しい」と仰っていました。

一公認会計士試験のための勉強は大変でしたか？

高校生の時点で既に公認会計士になろうと決めていたので、エスカレーター式に大学の商学部に進学しました。大学ではバスケットボールにも打ち込んでいましたが「相当勉強しないと公認会計士試験に合格出来ないぞ」という話も聞いていたので、専門学校にも通いました。大学の授業に出て、専門学校に通って、その合間にバスケットボールをやるという生活でしたから、勉強時間を確保するのが大変で、何度もくじけそうになりました。でも、専門学校で同じ年代の人達と友達になり、先輩達と知り合ってグループで勉強したりしながら、「将来、公認会計士になったら何をしようか」と、夢を語って支え合える仲間がいたことが、モチベーションの維持につながったと思います。そのかいもあって、無事、大学時代に公認会計士の試験に合格することができました。

一あずさ監査法人を選ばれたきっかけは？

一言で言えば“風通しの良さ”でしょうか。関西に生まれ育って、当時はあまり外に出たくないなという思いもあったので、あずさの大阪事務所に入所しました。2006年に公認会計士試験に合格したあと、まだ大学生でしたが、非常勤という立場で監査法人に所属し、監査の現場に携わることができました。卒業してから正式に採用され、私の公認会計士としてのキャリアが本格的にスタートしました。公認会計士と言えば、まず監査業務ですが、監査業務が好きかと聞かれると、作業そのものについては「はい、好きです」とは言い難いです（笑）。でも、色々な所に行けたり、多くの人達と会って話ができる機会があることは「好き」ですし、満足しています。

一監査業務で印象に残っていることは？

海外に行きたい、英語を勉強したいと思ったのは、入所5、6年目の頃。クライアントと一緒にベトナムとフィリピンに出張する機会があったのですが、その際に上司から「一人で行って来い」と言われました。クライアントが国際財務報告基準（以下：IFRS）をグループ全体に適用しようとしていた時期でした。現地に着いてから、IFRSについて概要を説



明するセッションがあり、私がおその役を担当しました。当時はほとんど英語が話せませんでした。台本は上司が用意してくれて、スライドも全部英語で事前に作成しました。時間にして20分ぐらいだったと思いますが、そのおかげで何とか無事にプレゼンテーションを終えました。ところが、私のプレゼンテーションを聞いて、現地のクライアントは「この日本人はなかなか英語ができるな」と思ったようで、セッション後の会話になると、怒涛の英語でのディスカッションが始まり、私はほとんど英語が喋れなくて黙ったままでした。今の自分の英語レベルの低さと海外で働くことの具体的なイメージに衝撃を受けました。この体験がきっかけとなり、海外で働くために英語の勉強をしよう、と強く思うようになりました。この一人で行った出張が監査業務の中で一番印象に残っています。今の自分がある、今の自分の原点となるような出来事でしたから。

## 海外赴任先に選んだのは アジア

—海外で働くことへの憧れはありましたか？

正直、大学時代も入所してから、海

外への関心は全くなかったです。周りはグローバル化の時代に合わせて「公認会計士もグローバルな人材にならなあかん」と言っていました。まるで他人事のような感じで、自分に当てはまるとは思っていませんでした（笑）。ただ、そうこうしているうちに、自分が海外出張や、海外駐在から帰って来た上司や先輩と一緒に仕事をする機会が多くなり、海外に興味湧いてきました。

それに加えて、パフォーマンス・マネジャーの後押しもありました。パフォーマンス・マネジャーは実際の業務とは関係なく、社員のキャリアアップを一緒に考えてくれるような専任者ですが、海外経験がある方で、ことあるごとに「海外に行った方がいいよ、鈴木くん。海外は面白いよ！」と言ってくれました。そうした方々との会話や経験をお聞きすることが増えていく中で、次第に海外への興味膨らんでいったという感じです。

—海外経験された方々をどんな風感じていましたか？

魅力的でしたね。楽しそうに仕事をやっているな、と。公認会計士というと、特に監査チームの若手は「一日中パソコンに向かってキーボードを叩いているイメージ」ですが、海外帰りの方は他の人と視点が違って、監査だけではなく

税務や法務、アドバイザーなど、違うサービスラインを広く見えています。「海外のオフィスや海外のクライアントの社長からは、この広い視点が評価される。公認会計士は幅広く色々な視点を持つことが大切なんだ」と気づかされました。もちろん、監査調書などの作成も重要なことですが、そこだけに注力するのではなく、もうちょっと視野を高くもって、社長と話したり、問題事項に関して相手と会話してソリューションを導き出すなど、そういうコミュニケーション力、いわゆるアンテナの高さがとても魅力的に映りました。

—赴任先にアジアを選ばれた理由を教えてください。

アメリカやヨーロッパは成長している市場ですし、仕事も監査業務のラインの一部というイメージがあります。言語を日本語から英語に置き換えただけで、日本と海外という自分のおかれた環境は変わりますが、業務内容はさほど変わりません。それに比べて、タイやベトナムは、もう少し幅広く仕事ができるということもあり、2015年にタイ、2016年にベトナムに赴任しました。アジアは伸びていると言われていましたし、激動というか、ごちゃごちゃしたというか、そういう成長途中の世界を経験してみたいと思いました。実際、アジアに赴任されているクライアントも、製造業や営業といった、いわゆる前線に立つ方々が多い。こういった方々と一緒に歩みながら、会社の成長を考えていく仕事をしていきたいというのもアジアを希望した理由のひとつです。大学の時も、入所した時も、特別、海外に行きたいとは思っていなかった私ですが、色々な方々から「3年に一度ぐらいは自分の置かれている環境を無理やりでも変えたほうがいい」「目線を1段階、2段階上げたほうがいい」とアドバイスをいただいたことで「あえて別の環境にチャレンジしてみよう」と自分なりに前向きな意識も働いたのかもしれない。

—ふたつのアジアで学ばれたことは何でしょう？

アメリカでもヨーロッパでも同じかもしれませんが、「日本ではこうやっている」「日本人はこう考えている」「日本では当たり前」というのは、絶対に禁句です。タイ人にしろ、ベトナム人にしろ、彼らには彼らなりに思うところがあって、それを尊重しながら仕事を進めていくことが重要です。彼らがどう思っているのかを考えて、「こういう方法ならこんなメリットがありますよ。どうですか？」という感じで話すことが、海外では必要だと思います。

ベトナムのKPMG ホーチミン事務所では様々な国の方が働いていました。トップがニュージーランド人で、次席がオーストラリア人。その他にドイツ人、インド人、韓国人、台湾人がいて、かなりインターナショナルな雰囲気でした。ナショナルリティによって当然性格が全く違うし、怒るツボも違う。仲良くなる方法も、議論の詰め方も千差万別。ミーティングも、雑談から始めた方がスムーズに進む人もいれば、いきなり本質から入った方がいい人もいます。そういったバラエティに富んだ環境で多くの人達と仕事できたのは、本当にいい経験になりました。ベトナム人でも育ちがアメリカだと、生粋のベトナム人とは気質が違ってりして、面白かったです。余談ですが、オフィスでは英語が基本ですから、ベトナムの街中でもある程度英語が通じると思いますよね？ でも、タクシーに乗るとほぼ9割方英語は通じません。これはカルチャーショックでした（笑）。

## 一期一会の心がまえ

—プロフェッションとしての大切なことは何でしょうか？

「一期一会」という言葉がありますが、公認会計士として、人との出会いはとても大切にしています。海外に行ってから特に思ったことですが、ずっとお付き合いのあるクライアントでも新しいクライアントでも、その人と会う機会は実は少ないのだな、と。クライアントの数が多すぎて、1年に1回しか会わない人もいれば、もしかすると、一生に一度しか会わない方もいるかもしれない。だから最初にお会いするときは、万全を期して準備もするし、その場で極力本音を引き出せるような付き合いができないか、と常に思っています。まさに「一期一会」です。相手を好きになるのもひとつの方法かもしれませんが、相手を嫌ってしまうと表情に出してしまうものですし、それ以降のお付き合いに支障が出ると思うので、苦しい時であっても相手のことを思いながら考えるようにしています。

—海外での一期一会、英語力は必要でしょうか？

私の場合、海外志向があったわけではないので、全く英語の勉強はしていません

んでしたが英語を学ぶひとつのきっかけとなったのが、法人内の英語研修でした。外部の講師をお招きして、週1回の割合で半年間程度のスピーキング中心のレッスンに参加し、その後、入社4年目、26歳の頃に、社内制度のニュージーランド語学短期留学に行きました。高校生や大学生に混じって1カ月弱学校に通い、学校が終われば、ホームステイ先のファミリーと一緒に食事をするという生活でした。英語が身についたのは、このニュージーランド短期留学で外国人の友達ができたことが大きいです。彼らとのコミュニケーションを通じて、それなりに英語が上達しました。アジアの人は、第一言語が英語ではないので、私を含め、お互いにペラペラと喋れるわけではありませんでした。となれば、英語という言葉に頼る以外に、「この人なんか面白そうだな」とか、そういう印象を持ってもらった方が、相手が自分の話を理解してくれようとするので、片言の英語でも通じるころがあると思います。個性があれば、相手が理解してくれようとするので、多少文法や単語の使い方が間違っても、十分にコミュニケーションすることができますので、怖がらず、ですね。

—今後のキャリアで何を目指されますか？

クライアントにしろ、同僚にしろ、人





と人とを繋ぐハブの役割を果たせる、そんな人材になりたいと思います。海外経験はしたものの、まだ4年だけです、その間に知り合った人との人脈をもっと広げていきたいです。そうすることによって、自分の仕事の幅も広がるし、スピード感も上がり、より大きな仕事もできる。クライアントからビジネスパートナーとして信頼されるような存在になりたいです。もちろん、あずさ監査法人というバックグラウンドがあつてのことで、単に監査だけしている人ではなく、「鈴木さんがいるから仕事をお願いしたい」とクライアントから指名されるような存在になりたいです。この人に頼めば、様々なビジネスの観点からアドバイスをしてくれるし、困ったときに相談すれば解決策が見つかるかもしれない、つまりオーディター（監査担当者）ではなく、ビジネスのパートナーでありたいです。そのためには、専門知識や、各国とのリレーションなど、まだまだ足りない部分がたくさんあります。国内外問わず、色々な所に行って、多くの人にとって、もっともっとチャレンジし続けること。これは今後の私のキャリアにとって、最も大切なことだと肝に銘じています。

一最後に、若い公認会計士の方々へのメッセージをお願いいたします。  
自分のやりたいことを見つけて、ぜひ

チャレンジして欲しいです。やりたいことを見つけるには、色々なところに足を運んで、多くの人話を聞くことが必要です。私は「できるだけ明るく、前向きに」をモットーにしてきました。振り返ると、辛いこともたくさんありましたよ（笑）。人間ですから上手くいかないこともあります。辛くて大変な時でも、「笑って仕事ができる、生活ができる」ようになっていって欲しいですね。英語が苦手だから海外に行けないという考え方は捨てた方がいい。海外でしか得られない経験やそこで培った人脈は、自分の人生にとって、とても大きな財産になるはずですから。

このインタビューは2019年8月19日に実施されました。



日本公認会計士協会

The Japanese Institute of Certified Public Accountants.

〒102-8264 東京都千代田区九段南 4-4-1  
TEL : 03-3515-1120 (代表)  
03-3515-1130 (国際グループ)  
<http://www.hp.jicpa.or.jp/>